

## 平成 29 年度 第 1 回古賀市図書館協議会会議録

会議名称：平成 29 年度第 1 回古賀市図書館協議会

日 時：平成 29 年 5 月 19 日(金)14 時～15 時 40 分

場 所：古賀市役所第一庁舎 4 階第 2 委員会室

主な議題：①委嘱書の交付

②副会長選出

③協議等

(1)平成 28 年度事業等報告について

(2)平成 29 年度事業等計画について

(3)その他

傍聴者：0 名

出席者：橋本 由里委員 檜山 みどり委員 鈴木 章委員 河村 正彦委員  
村山 美和子委員 渋田 京子委員 久池井良人委員 石丸 貴子委員  
以上 8 名

欠席者：0 名

事務局：5 名

配布資料：①レジュメ

②平成 28 年度図書館事業報告

③図書館利用状況

④古賀市立図書館利用者数(平成 24 年度～28 年度)

⑤市立図書館の運営方針と活動目標

⑥平成 29 年度図書館事業計画

### 1 開会のことば

(事務局) 本日は、皆様お忙しい中お集まりいただきましてありがとうございます。

平成 28 年度からお願いをいたしまして、平成 29 年度に入りましたけれども、皆様またよろしくお願ひしたいと思ひます。

資料の確認をさせていただきます。レジュメ、平成 28 年度の事業報告、平成 28 年度の統計、過去 5 年間の統計資料、市立図書館の運営方針と活動目標、平成 29 年度の事業計画、委員名簿をお配りしております。不足等ございませんでしょうか。

本日は、第 2 委員会室にて会議を進めさせていただきます。本会議につきましては、会議の公開制度に基づきまして、傍聴席を設けております。会議の内容につきましては、古賀市のホームページ上に公開されますので、あらかじめ御了承いただきたいと思ひます。

お手元にマイクがありますので、発言いただくときには、スイッチをオンにさせていただいて、終わりましたらオフということで、お願ひしたいと思ひます。ご協力よろしくお願ひいたします。

それでは、平成 29 年度、第 1 回古賀市図書館協議会を始めたいと思ひます。開会の言葉を文化課長星野よりいたします。

(課 長) 皆さんこんにちは。本日はお忙しい中、平成 29 年度第 1 回古賀市図書館協議会にご出席いただきましてありがとうございます。

先月 4 月 8 日には、リーパスプラザこがのグランドオープンがございました。図書館、歴史資料館、交流館、中央公民館がつながりましたことで、より多くの市民の方に、図書館を始めとしたリーパスプラザこがに来ていただきたいということで、志を強くしたところでございます。

平成 29 年度の事務局体制でございますが、見ての通り顔ぶれは変わっておりません。ほとんど図書館のほうも異動がございませんでしたけれども、この体制で今年度よろしくお願ひしたいと思っております。

本日レジュメにもございますが、協議会の委員の方に 1 名交替がございました。すぐ後ほどご紹介となりますけれども、新たな協議会の体制で活発なご意見等を出していただきながら、1 年間お願ひしたいと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。

## 2 委嘱書の交付

(事務局) 続きまして、委嘱書の交付を行います。

昨年度、第 1 回目の協議会開催時に、委員の皆様にご 2 年間の任期で委嘱書をお渡ししておりましたけれども、副会長をしておられました社会教育委員の加藤委員さんが平成 29 年 3 月 31 日をもって社会教育委員の任期を終えられたということですので、残念ながら解嘱ということになっております。

古賀市生涯学習センター条例第 20 条第 1 項第 2 号に、古賀市図書館協議会の委員について、「委員の任期は 2 年とする。ただし、補欠として委嘱された委員の任期は、前任者の残任期間とする」と定められております。このことから、今年度、社会教育委員として新たに檜山みどりさんをお願いをしたところ、快くお引き受けいただいております。ここで委嘱書の交付を部長よりいたします。檜山さん、よろしくお願ひします。

(部 長) よろしくお願ひいたします。(拍手)

(事務局) それでは、新しく委嘱されました、檜山委員さんより一言ご挨拶をお願ひいたします。

(檜山委員) 檜山です。どうぞよろしくお願ひいたします。(拍手)

## 3 部長あいさつ

(事務局) 続きまして、古賀市教育委員会部長清水より挨拶を申し上げます。

(部 長) 改めましてこんにちは。部長の清水でございます。

本日は皆様それぞれの仕事、所属の委員会等お忙しいところご参集いただきましてありがとうございます。平成 29 年度の第 1 回の会議でございますが、ただいま委嘱書を交付いたしました檜山さんを新たな委員としてお迎えいたしまして、会議を開催していけることを私としては楽しみにしています。

かねてから申し上げますように、この委員会でのご意見の内容はもとより、それぞれのお話が私の中にずっと入ってくる委員会なんですね。それぞれのお人柄もそうです

し、やはり読書をしてこられた方の語彙やいろんな力がそこにはあるんじゃないかなと思っています。檜山さんにハードルを上げているわけではないし、プレッシャーをかけているわけではないですけども、とてもあたたかい言葉が飛び交う会議です。この会議をぜひ、ご自分の意見を言いながら、楽しんでいただければと思っています。本年度もどうぞよろしくお願いいいたします。

#### 4 副会長選出

(事務局) 次に、副会長の選出に入りたいと思います。加藤委員に副会長をしていただいておりますことから、今年度からの副会長を新たに選出していただきたいと思っています。

会長、副会長は委員の中からの互選ということになっておりますけれども、どなたかありますでしょうか。(なしとの声)

ありがとうございます。それでは、事務局より、ご提案をさせていただいてよろしいでしょうか。(拍手)事務局より、久池井委員さんをお願いをできたらと思っています。久池井委員さんは、平成27年度末まで福岡市総合図書館の図書館長をされておまして、公共図書館の事業計画、運営について大変詳しく、協議会を進めていく上で適任だと思っています。よろしいでしょうか。(拍手)それでは、久池井副会長よろしくお願いいいたします。お席を前に移動お願いいいたします。一言ご挨拶をいただいてよろしいでしょうか。久池井副会長、よろしくお願いいいたします。

(副会長) 久池井です。よろしくお願いいいたします。(拍手)

#### 5 会長あいさつ

(事務局) 続きまして、鈴木会長よりご挨拶いただきたいと思います。

(会長) 皆さんこんにちは。会長の鈴木でございます。よろしくお願いいいたします。

毎回思うんですけど、19ページにわたる前回2月21日の会議録、原稿を立ち上げて2人の方が校正されて、自分の発言を読みながら、こんなこと言ったのかと思うこともありますが、作成するだけでも大変なことですね。本当によくわかります。担当者の方、携わった方へお礼を申し上げたいと思います。

この頃、図書館にある学校の校史、卒業アルバムが大変なことになっているのが見えてきたところです。ここの図書館はどうなんだろうと思います。本当に頭の痛いこと、情けないことではないかと思っています。これらが開架から閉架に移るんじゃないか、チェックも厳しくせざるを得ないんじゃないかと思っています。

全国に図書館の運営の仕方が変わってきている部分もありますけれども、私はどちらがいいということではなく、例えば今のこの古賀市立図書館であれば、民間のノウハウを生かして、良い点、大事なところは活用、参考にして工夫していくことは大事だと思うんですね。色々なことを総合的に考えながら、よりよい図書館運営をしていくということではないかと思っています。どうぞ今日の第1回の協議会、計画等を十分審議していただき、充実した会にしたいと思っています。どうぞよろしくお願いいいたします。

(事務局) ありがとうございます。

## 6 協議等

### (1) 平成 28 年度事業等報告について

(事務局) それでは早速ですけれども、本日の協議に入っていきたいと思っております。これからの協議につきましては、進行を会長、副会長にお願いしたいと思います。鈴木会長、久池井副会長、よろしくお願ひしたいと思います。

(会 長) 不十分なところはどうぞ言っていただきたいと思います。それでは今日の協議ということで、昨年度の事業報告について、それぞれ質問、意見等を出していただければと思います。初めに、平成 28 年度の事業報告について、事務局からお願いします。

(事務局) 平成 28 年度事業等について、事務局から報告させていただきます。

資料の平成 28 年度図書館事業報告をご覧くださいと思います。事業の詳細な報告につきましては、昨年度、第 3 回会議の際にさせていただいております。今回は事業の参加者数について記入しまして、配布させていただいております。

平成 28 年度は、新たにスタートさせたセカンドブック事業、小学 1 年生への読書ノート配布とおはなし会、そして、雑誌スポンサーに取り組んだところでございます。

セカンドブック事業につきましては、3 歳の誕生日を迎えたお子さんと保護者を対象に絵本をプレゼントしまして、家庭で本を通してふれあう時間をつくっていただくことを目的として始めております。図書館としましては、セカンドブックなどの意義をゆっくりお話しして、図書館利用にまでつなげていきたいということで取り組んでおります。けれども、周知の徹底不足、忙しい保護者が参加できないという実態がありまして、3 月末で配布率が 40% 台ということでした。4 月になって 3 歳児健診でセカンドブックをプレゼントすることができまして、現在のところは 50% を越えてきているという現状です。

小学 1 年生の読書ノート配布とおはなし会、これは「市内の 8 小学校へ希望していただければ図書館マスコットのこどもちゃんがお渡します」ということで、図書館マスコットのこどもちゃんと一緒に伺いまして、おはなし会で楽しんだ後に、読んだ本が記録できる読書ノートをお渡ししております。全部の学校を回らせていただいて、600 人の 1 年生に手渡すことができしております。図書館内でも借りた本のシールをもらって貼っている子どもの姿が見られており、とてもうれしく思っているところです。

雑誌スポンサー制度は、昨年度 4 月の段階で、3 社 5 誌ということでご協力いただいております。その後、企業、お店などをお願いに参りまして、現在のところ 8 社 13 誌のご協力をいただいております。今後どう協力を仰いでいくかというのが今後の課題と思っております。

講座関係では、文学講座だけではなく、市民のニーズを意識しました「暮らしの講座」に取り組ましまして好評を得ることができました。2 回実施しまして、延べ 120 人の方に来ていただいたところです。

また子ども向けには「ぐりとぐらの人形劇を見てカステラをつくろう」、「本立てづくり」など、子ども自らが挑戦できるような講座も実施いたしております。

さらに、中学生読書サポーター養成講座を夏休みに開きまして、学校や地域、市立図書館でも、本の楽しさや大切さを伝える活動を推進しているところです。具体的には POP 講座を行いまして、おすすめの本を POP でつくりまして、図書館の展示棚に展示してお

ります。また、中学生読書サポーターさんには図書館の行事にも参加いただきました。子ども読書イベントの「お楽しみ貸出袋」では、おすすめの本を3冊入れたセットを用意して、利用者に借りていただくということをしているんですが、サポーターさんおすすめの本も3冊選んでいただき、読書の推進をしてくれたところです。

その他に、平成28年度は「第3次古賀市子ども読書活動推進計画」策定に取り組みました。この計画は、子どもが読書の楽しさやすばらしさに出会い、読書を通じて子どもの心の豊かさや人生をより深く生きる力を身に付けることができるような環境づくりを進め、子どもが健やかに成長することを目指すものです。この計画は5年ごとに見直しを行っていますが、5年目に当たる昨年度、第3次の策定協議会を発足し、協議を進めてまいりました。第1回を7月に行いまして、協議を重ね、3月に行いました5回目の協議会を経て、素案を作り上げたところです。現在、5月2日から6月1日まで、パブリックコメントを実施しまして、市民の皆様のご意見をいただいているところでございます。

次に、平成28年度の利用状況についてです。図書館利用状況、平成28年度、月毎という一覧表がございますが、訂正がございます。開館日、貸出冊数がありますけれども、貸出冊数の右に、月平均、この数字を変更ください。33,044でございます。それからその下の利用者人数の右のほう、月平均がございますが、8,531です。それから、登録人数が155.3になります。すみませんが、訂正をお願いしたいと思います。

利用状況についてですけれども、平成27年度にLED改修と増床工事を行いまして、平成28年2月にリニューアルオープンしました。多くの利用者を見込んでおりましたけれども、駐車場が整備されなかったことや、ここ数年、パソコンやスマートフォンの普及などの社会情勢の変化の影響か、平成24年度をピークに利用者数が落ち込んでいる、伸び悩んでいるということが現状となっております。8月にリーパスプラザこがの交流館がオープンしまして、その時にキャンペーンを行いましたが、夏休みということもありまして、入館者数、登録数は少し増えておりますけれども、臨時閉館をした平成27年度を除きまして、ここ5年間の利用数を比較すると減少傾向にあるということでもあります。

ただ、次のページに過去5年の統計を載せておりますけれども、登録人数につきましては28年度が1番多くなっており、新たな利用者が増えているということがおわかりいただけるかなと思っております。

これらの実態を踏まえながら、平成29年度の取組につなげていけたらというふうに思っているところでございます。以上が平成28年度の報告でございます。

(会 長)           ありがとうございます。ここまでで何かご質問あるいはご意見、感想等ありましたら、お気づきになったところからどうぞ出してください。

これは私の方からですけれども、事業報告の中の、10月8日子ども図書館員が7名ということですけど、これは各学校1人という意味でしょうか。

(事務局)           これは図書館から募集をかけまして、広報等でご案内をしました。掲示物や広報こが、インターネットで広報して、応募していただいた方をお願いしたところです。

(会 長)           募集をかけた上での数字ですか、わかりました。ありがとうございました。何かご感想等でも良いと思いますが、ありましたらどうぞ。

(副会長) 先ほどの子ども図書館員の事ですけど、非常に面白い、大事なことだと思うんですね。この子ども達が学校に戻って、何か活躍をするとか、中学生読書サポーターの方たちも学校に戻ってこんな事をしているとかいう、事後の事は何かあるんでしょうか。

(事務局) 中学生読書サポーターにつきましては、各中学校に戻って本の紹介とか、そういう事をしてほしいと伝えています。今日は資料を持ってきていないんですけども、中学校でこんなことをしましたという報告は上がってきています。また、地域のほうで、地域文庫のクリスマスお楽しみ会があったんですけども、そのときに「チラシをつくってほしい」というご要望がありましたので、中学生読書サポーターさんがそのお手伝いをするという活動をしていました。

子ども図書館員につきましては、特に学校でということは今のところございませんけれども、感想を見ていますと、「とても楽しかった、またこんなことをやってみたい」という感想はいただいております。

(副会長) 古賀市子ども読書推進計画も策定されますね。そうするといろんな形で連携ができていくと思います。大人の場合の連携と、もう一つは、せっかく子ども達はこういうことを学んでいくわけですから、どこかの学校でもいいですから、活躍できる場所があって、「こんなふうに活躍していましたよ」ということを発信すれば、子どもにとっても励みになります。学校にとっても、「ああそういうことがあったのか、じゃあこの子達をぜひ生かしていきたい」ということで、また新たな活動の掘り起こしになるんじゃないかと思うんですね。場合によっては、学校の先生も小学生が子ども図書館員に応募していることも知らなかったということもあるかもわかりません。いろんな意味でお互いに刺激しあうということが大事ではないかと思います。せっかくの事業ですから、事後のことも含めてPRをしていただけたらと思っております。ぜひ生かしてください。

(事務局) ありがとうございます。学校それから学校教育課ともつながりながら、考えていきたいと思えます。

(会 長) ほかにございませんか。確認したいことでも結構だと思います。  
改修工事の問題もあったかもしれませんが、先ほど、利用者数、登録人数等が若干横ばいとか減っているという指摘もありました。これは、ここだけではなく全国的なところもあるんですけど、基本的には人口減、あるいは、少子化とかいうことももちろん関連しているかもしれません。

学生と話していく中で、図書館にはパッケージ電子メディア、CDとかDVDとかもあるわけですけど、電子メディア系の発達によって、紙媒体から少し興味関心が離れつつあり、そっちに目が行くということも関連して、今の横ばいなり減少なりに若干つながっていると思います。私は、大学の授業で必ず絵本の紹介または読み聞かせをしているんですけど、その時に、「帰省したときにもういっぺん家にある本を読んでみよう」、または「大学の図書館、公共図書館に行くようにと先生がいうものだから、図書館に行くようになってきた」、など、図書館に足を運ぶことが多くなってきたという話が広がりつつあります。

つまり、紙媒体への興味が若干薄れているかもしれないけれども、例えば「絵本はものすごく楽しい」、「絵本にすごい内容があり、考えさせるものがある」、そんな形で中に入っていき、つまり図書館に足を運ぶというケースがあるというように、そういった刺激、PRということになればよりいいでしょう。そういったことが今年度の活動につながってくるんでしょけど。よりよい市民、利用者へ関心をそそるような活動とか内容があれば、結果そういうことになってくるのではないかと思います。一方でいろんな外部の環境が広がっていますけど、改めて思ったのは、やっぱり着実にやっていくことだなということですね。あまり参考にならないかもしれませんが、そんなことを思いました。ほかに、どうぞ。

(橋本委員)

平成 28 年度の事業の子ども図書館員に関してです。先日の古賀市の広報で船原古墳についての特集号が出ました。その中で、花鶴小学校の男の子が船原古墳の 1 日リポーターという形で案内していて、非常に現場としても、子ども自身が子どもの目線で古賀市の文化財を紹介している記事というのはすばらしいなと思いました。本校の子ども達にもコーナーを作って、「こういう子ども達がいるよ」って。12 日までは例の緑のガラス製の馬具がじかに見られるという事で、6 年生も「行こうね」ということになり、訪問させていただこうと思っているところです。

各小学校、中学校はフェイスブックをつくっておりますので、どの学校もフェイスブックで子ども達の活動を紹介しております。本校でも図書館の事とか、読み聞かせの事とかも折に触れ発信しておりますので、もしよろしかったらその子ども図書館員に来た子ども達の活動の様子を、保護者の了解のもとで、学校のほうにデータを回していただいたらまたフェイスブックでも紹介するし、多様な発信、重なってもいいと思うんですけれども、そういう方法もあるので、今後ご活用いただけましたらと思っております。以上です。

(会 長)

ありがとうございました。ほかに。はい、どうぞ。

(石丸委員)

読書ノートの配布のことでお伺いしたいんですけども、貸出ししてもらった分はシールを出してもらって読書ノートに貼るそうですが、これは学校で借りた分はシールが出るような仕組みではないんですよね。

(事務局)

残念ながら学校のほうではシールが出ませんので、学校で借りた本については自分で手書きで書いていただくということで、紹介させてもらっています。

(石丸委員)

きっとそうだろうなとは思いました。予算のこともいろいろあるので、難しいかとは思いますが、できれば、そういうところも連携していくと良いと思います。1 年生のとき読書ノートをもって、それが 6 年生までずっとつながったら、とっても良い資料、その子の読書の財産になると思うので、そういうやる気を生むには、もちろん手書きもいいんですけど、学校図書館で借りた本もシールが貼れると大分違うと思うんですよ。

そういうことで何かうまく工夫することで、連携ができれば、もっと活用してもらえないんじゃないかなと思います。せつかくこれだけ配布してくださっているの、ぜひもっと活用してほしいなと思いました。

(会 長) 大事な意見だと思います。他にないでしょうか。

(副会長) 他になければ。平成 28 年度は登録数が伸びましたね。昨年度のこの会議の中でも登録数を延ばすことは非常に大事ということは言っていましたけど、これが伸びたことは非常によかったと思います。しかし貸出数が減って、利用者も減って入館者数も減ったと。平成 27 年度は比較の対象にならないでしょうけども、それより前に比べてもですね。ここはやっぱり何か、古賀市立図書館に限らず、この傾向の裏にあるものがあると思うんですね。例えば、最近は多様性の話もありましたけども、以前だったら 1 回の貸出しの数をもっとたくさん借りていた利用者が、1 度にたくさん借りなくなったのか。または一応リーパスプラザもできたから登録したいと思ったけど、その後の利用がそうでもなかったとか。いろんな分析があらうかと思いますが、分析されるのはなかなか難しいと思いますが、このことについては、どんなふうに。感想としていかがでしょうか。

(館 長) そうですね。なかなか分析というのは難しいんですけども、登録者数だけが増えたというのが、今回不思議なところがあります。だいたい利用者あるいは入館者数は減少傾向にありまして、平成 23 年の頃は 1 日平均 800 人程度にはなっていたんですけども、平成 28 年度になってくると 600 人程度、200 人も下がっているんですね。5、6 年の間に。そこら辺に何か理由があるのかなと思わないでもないんですけども、その理由は皆で話してもなかなか、どこにその理由があるのか。

糟屋地区の公共図書館担当者会、福岡地区公共図書館協議会に行って、館長さん達の話聞きましても、なかなかその原因がわかりません。SNS とか、インターネットとか、そういうことの普及が原因なのかどうなのかというのもわからず、なかなかこれといった決め手には行き着いていないというところがございます。

(副会長) これは活字離れを含めて全国的な傾向と思うんですね。ただ入り口は開いていると思うんですよ。これで登録者数も減ったらいよいよ先細りというふうになりますが、登録は増えているわけですから、入り口は実は広がっているんじゃないかと思うんですね。

リーパスプラザも全体が開館しましたし、平成 29 年度は、図書館はいろんな取組をされるでしょうけども、これを一転、減少に歯止めをかけて、新たな利用者を開拓していくには大事な年ではないかなということ、改めてこの資料から私も考えさせられました。

(会 長) 逆にこのグラフ的に見ると、順調にいけばこれからもしかして伸びていくのかなっていう感じがするんですね。しかし、今の取組いかんでもあるかもしれません。どうぞ。

(河村委員) 河村です。私の場合には、在職中はたまたま教育機関に勤めていたものですから、その図書館でいろんなことをほとんどすべて賄うことができ、退職後に公共の地元の自治体の図書館を利用させていただくようになりました。

それで、以前の私の印象では、もっと図書館でなされるプログラムの中に、文学講座とかそういう感じのものが多かったような感じがするんですね。今年度なんかは非常に伸び盛りである将来を担う子ども達を対象として、多彩なプログラムが編成されているのに、正



直、驚いているというか、すばらしいなという感じを持っています。やっぱり以前と大分事業の内容が変わってきたんですかね。非常に細かく多彩なことをなさっている。図書館の事業活動として非常によく組まれているなど。むしろ退職して初めて図書館にかかわるようになったからこそ、いろんなことが非常に新鮮に見えると申しますか。なかなか、よくなさっているなど。いつも感心しながら伺っています。

(会 長) 幼児期から青少年あたりに重点、シフトが行っているという意味ですかね。あえてそういうふうにしていく方向で何かこう意識的に動いているということでしょうか。それともたまたま今の状況がこういう事なんでしょうか。

(館 長) 今、古賀市子ども読書活動推進計画の第2次が動いているところで、今第3次の計画を策定しているところでございます。計画があるというところでやっぱり、子どもの読書の推進というのにどうしてもウェイトがいつている状況になるのではないかなと思います。

しかしながら、今の公共図書館というのは、情報センターとしての図書館、様々な生涯学習の支援に対する図書館としての役割もあります。平成28年度では、新たに2回やりました「暮らしの講座」を開くことによって野菜づくりの情報提供なども試みています。

これから先、子どもから大人まで満遍なく利用していただけるような、図書館になっていけたらと思っております。

(会 長) わかりました。河村委員さん、ようございますか。

(河村委員) はい。

## (2)平成29年度事業等計画について

(会 長) それでは、平成29年度の計画というところで、今のようなご意見、ご質問等いただければと思いますので、次に進めましょうか。二つ目は、平成29年度の図書館の計画の説明をお願いいたします。

(係 長) はい、平成29年度図書館の事業計画の説明をしたいと思います。

市立図書館の運営方針と活動目標というところで、今年度分を配布させていただいております。運営方針につきましては、基本的な、根底となるところですので、今までと変わりはありません。市民の知る自由を保障し、生涯学習を支援する情報センターとしての図書館、地域の情報拠点として市民の暮らしに役立ち、豊かな心を育てる図書館、社会の変化や地域の実情に応じ市民とともに成長し、市民に信頼され、支持される図書館という方針を立てております。

次に、平成29年度の活動目標につきましては、(1)から(6)まで目標を上げております。(1)市民のニーズや地域の課題に対応したレファレンスサービス(情報提供)の充実と活用促進。市民の皆様が必要な情報が得られるように、専用のレファレンスカウンターを設置しまして、新聞記事や百科事典などのデータベースと、昨年度から入っております「ルーラル電子図書館」という、農業についての雑誌や野菜づくりの裏ワザなどを見ることができますデータベースを、職員がレファレンスの補助ツールとして活用したり、利用者自ら

が情報検索に活用していただいているというような状況です。今後の検索、調査研究など必要に応じましてスタッフがお話を伺いながら、課題解決の支援をさせていただきたいと思っていますところでは。

(2) 郷土・行政資料の収集、利用者への情報提供の更なる充実、これは古賀市の郷土・行政資料を古賀市内の各課などへ協力を呼びかけながら収集しまして、情報提供ができるように充実を図っていきたいと考えております。2月にリニューアルオープンをしまして、昨年、郷土行政コーナーを整理し、スペースが広がったことから、随分利用しやすいような状況になっていると思います。さらに、過去に質問があった事柄や、よく、調べられる事柄などをきちんと整理しまして、情報提供がスムーズにできるようなシステムをそういうものを構築していきたいと考えております。昨年度は船原古墳が国指定遺跡ということになりましたので、文化財係と連携して、展示などを行うようにしましたので、また今年度も何かアピールできることがあればいいなというふうに思っております。

また、図書館では情報提供ラック事業を行っております。市役所の各課と連携をしまして、古賀市が主催する事業などを行う場合、関連図書を集めまして、ラックで紹介して、事業のことも知っていただき、さらに、いろんな中身のことも深めていただきたいと思いますと思っていますところでは。

(3) 古賀市子ども読書活動推進計画の策定、セカンドブックや読書ノートの配布及び中学生読書サポーター養成講座などによる読書活動の推進。古賀市子ども読書活動推進計画は先ほど報告でも申しましたけれども、現在策定中で、今ちょうどパブリックコメントの最中でございます。市民の皆様からいただいたご意見を生かしながら、今年度9月には公表できるように務めていきたく思っております。計画ができましたら、小・中学校、高校、保育所などの学校、教育部を初めとする市役所庁内各部署、それから読書ボランティア団体、近隣の公共図書館などに配布させていただこうと思っております。その計画の中に盛り込んでおります中でも、この中に書いております事業について、3点、説明をいたします。

セカンドブックについては、今年度につきましては、1人でも多くの親子に手渡すことを目標に掲げまして、3歳児健診のときに配布をしていこうというふうに計画をしております。既に4月、3月生まれの親子さんに、その日だけで60%配布ができたところでは。昨年度3歳になられた方で、まだ半分ぐらいの方が受け取りにこられていないということもありますので、昨年度もいたしましたおはなし会も月1回並行しながら取り組んでいこうと思っております。

読書ノートの配布につきましては、今年度も引き続き行っておりまして、先日全ての小学校への配布が終わったところでございます。1年生だけでなく、いろんな学年にも対応した読書ノートというのも考えておりまして、4月の子ども読書の日イベントの時に、1年生以外でも使えるようなノートを作りまして、子ども達にプレゼントしたところでは。今もカウンターに置いておりまして、希望すれば、シールとあわせて、お渡ししているところでは。先日、読書ノートの記録をつけている子どもさんのノートを見せていただいたんですけども、もうしっかりびっしりと感想まで書いていて、職員皆で回して、感動していたところでは。秋には、県立の特別支援学校の1年生にもプレゼントしたいなというふうに計画をしているところでは。

中学生読書サポーターも昨年度に引き続いて実施いたします。募集をしまして、今年度

は、ブックトーク、本の紹介を中心に講座を進めていきたいと考えております。先ほども、久池井副会長からのご意見にありましたように、講座を修了した後、各中学校、地域、市立図書館でも読書推進活動を続けていていただいで、読書の場を広げてほしいなというふうに願っているところです。

(4) 読書講座、読書ボランティア養成講座、図書館まつり等の講座や事業の充実。事業につきましては次の資料をご覧くださいと思っております。

4月当初にリーパスプラザこがのグランドオープンイベントがありました。このときには、ことちゃんの原画展ということで、図書館マスコットのことちゃんの製作者のご厚意により、原画をお借りしまして、図書館内で掲示をしております。4月22日23日には「子ども読書イベント」を行いました。お楽しみ貸出し袋の貸出しは19日から行いました。1袋3冊、年齢に合わせまして6種類のお楽しみ貸出し袋のセットをつくりまして、112袋貸出し、借りていただいたところがございます。それから読書ノートの配布は先ほど申し上げたとおりです。「本とあそぼう全国訪問おはなし隊」ということで、絵本を載せたキャラバンカー、5~600冊本を載せてくるんですけども、そこで本を見まして、その後にお話し会をしていただきました。それから、「はじめての子ども落語」ということで、初めて、図書館でアマチュア落語家の粗忽家酔書(そこつやよいしょ)さんをお迎えしまして落語を行いました。大人の方、それから子ども合わせて、46名の方に来ていただいております。この他にどうおはなし会をしたんですけども、イベントのときですので、「どうおはなし会プラス」ということで、お父さんにもお話をさせていただこうということで、お父さんのお話、それから、おはなし会が普段小学生以下の小さなお子さんの参加が多いので、小学生にも楽しんでいただきたいということで、普通のおはなし会が終わった後にプラスして、小学生向けのストーリーテリングをボランティアさんをお願いをして実施したところです。それから、次に4月から5月の中旬にかけては、読書ノートとお話会、先日全ての小学校を訪問させていただきました。

来月になりますが、2回読書ボランティア講座「絵本の力を届けよう」で、「子どもの本の専門店エルマー」から前園敦子さんをお迎えしまして講座を設けております。1回目が講話、2回目が実践ということで組んでおります。

7月は「大人のためのおはなし会」、23日には地域文庫さん6団体による「おはなし会スペシャル」、「中学生読書サポーター養成講座」、これは夏休みに7月8月分を含めまして3回ということで、「ブックトークボランティア本の楽しさ届け便」のほうから講師を迎えまして計画をしているところです。7月30日には、これは初めての試みになりますが、東医療センターとの連携講座「がん診療の現状」、統括診療部長の先生を迎えまして講座をお願いし、がん支援センターの説明をいただくとともに、ご相談にもものるというような講座にしたいと考えております。

8月2日「子ども図書館員」、19日「親子でのラジオづくり」ということで、電波適正利用推進員協議会の皆さんに来ていただいで、電波について学び、その後ラジオ作りを行いたいと思っております。

9月には、平成28年度に好評でありました暮らしの講座「野菜づくり」を引き続き行います。30日「英語でおはなし会」ということで、学校教育課の外国語指導助手の先生に来ていただきまして、英語と日本語とを合わせまして、おはなし会をやりたいなと思っております。

10月に入りましては、読書講座「川柳」に取り組みまして、雪灯拔足(ゆきあかりばつたり)さんに来ていただきまして、川柳を教えていただきたいと思っております。10月の後半ですけれども、図書館まつりを行っていききたいと思います。詳細は打ち合わせしておりませんが、序々に検討していききたいと思います。読書講演会、これは児童文学作家の杉山亮さんをお迎えするのと、日曜日に「ビブリオバトル」、本の書評合戦に初めて取り組んで参りたいと思っております。

11月には、大人の図書館員、読書講座「師弟ライバル」ということで、講師をお迎えして計画をしております。

親子読書会につきましては2月3日に、「第49回古賀市親子読書のつどい」を開催する予定でございます。

月例行事としましてはおはなし会、名画会、等々の計画を書いているところでございます。チラシや広報、ホームページなどで市民に周知しながら、実施を進めていききたいと思いますところがございます。

(5)福岡県内各公共図書館等及び国立国会図書館との総合ネットワークの活用ということで、公共図書館との相互貸借、研究論文資料複写の依頼等、国立国会図書館との総合ネットワークの活用については引き続き行っていききたいと思います。市民のニーズと課題の解決ということで、(1)ともつながってくる支援ではないかと考えております。

(6)学校図書館との連携推進につきましては、中学生読書サポーター講座、読書ノート配布、学校司書おススメの本の展示、親子読書会など連携しながら進めていききたいと思いますところでございます。

新たに取り組む事業としましては、学校図書館の地域開放に伴います一般書の配本を定期的に行いまして、地域市民の方の読書を支援していききたいというふうに考えております。既に、学校教育課と連携しまして、1校40冊を目安に第1回の配本を行ったところでございます。1か月ごとに本の取り替えをしながら、事業が軌道に乗ればということで、試行をしていききたいと思いますところでございます。

今年度新たにする取組として、子ども読書活動推進計画にも関わってくると思うんですけれども、出前講座ということで古賀市の出前講座に登録をしまして、子どもの読書推進に関する読み聞かせ、おはなし会、などをしていききたいと思います。申し込みがあるのを楽しみにしているところでございます。以上が、今年度の活動目標ということになります。生涯学習を支援する情報センターとして、読書センターとして、市民の皆様の役に立つ図書館づくりに向けまして、先ほどお話した市民の関心をそそる活動ということで、職員一同、一体となって取り組んでいきたいと考えております。以上です。

(会 長) 詳しい説明をいただきましてありがとうございました。まず、運営方針三つが挙げられましたね。それから、活動目標として、1から6項目を挙げられました。そのうち4項目が別のページの事業計画ということで、今年の事業計画が具体的に一覧表になっているということで、それぞれ説明をしていただきました。それでは運営方針活動目標、このあたりのところで何か。ちょっと聞いておきたいとか確認しておきたい、その辺りを含めて何かご質問、ご意見等がありましたらどうぞ。

(渋田委員) 事業計画の中に去年私達が言ってきた、ビブリオバトルや、小学生のためのおはなし会

とかが入ったりして、すごく前向きに取り組みされていて、すごくいいなと思って見ていました。ありがとうございます。

一つですね、ボランティアの立場からお聞きしたいことがあります。私達ボランティアがやっぱり小学生とかにおはなし会をする時に、この本が良いというような本が、古賀の場合は閉架に入っていることが多いんです。閉架に入れる基準というのは、図書館側ではどういうふうを考えられているのでしょうか。書架に出ている本が比較的新しい本ばかりで、本当に読み聞かせで長年読み続けられているこれがいいよとボランティアの中では言われている本がほとんど閉架で、閉架という存在を知らない新しくボランティアとかに入ってきた方がいるんですよ。だからその閉架の基準を教えてくださいなと思っています。

(事務局) そうですね、比較的使われる良い本というのは、開架のほうにも置いているんじゃないかと思うんですけども、やはり利用が多いので、何冊か複本を置いていまして、それを閉架書庫から出してくるということではないのかなっていうふうに思ったんですけど、違いますかね。

閉架の基準といいますのは、資料、統計等になりますと古いものからどんどん引いていくってことにはなると思うんですけども、基準もありますので、それに照らし合わせながら、周りの状況を見ながら、引いているとか、閉架のほうに送っていくってことにはなると思います。ただ、優れた絵本を中に置いているというのはどうかと私も思いますので、その辺は多分複本で対応しているのではないかなというふうに思いますでしょうか。

(会 長) 渋田委員さん、借りにくいというか、利用しにくい部分が若干あるかなって意味ですか、閉架によって。

(渋田委員) 最近、おすすめの本、読み聞かせに向く本というコーナーがありますよね。あるんですけども、別に20数年読み継がれてきた本とかを調べると、やっぱり全部複本じゃなく1冊が閉架に入っていて、出してもらいことが多いんですよね。なので、図書館の司書の皆さんが思っているいい本と私達ボランティアの中でボランティア協議会じゃないですが、そういうところで言われている本とのギャップがあると思うんです。やっぱりそういうすり合わせもちょっとずつしていってもらえたらより出てくるじゃないかなと思ってちょっと見えています。私達の中では、結構「また閉架やった」という感じがあります。若干広くなった分、「昔閉架に入っていたのが今度は表に出とうね」というのもあったりもするんですけど。

その辺、急には無理だと思うんですけど、ゆくゆくそういうボランティア達がいいと思っている本と、図書館の皆さんがいいと思っている本のすり合わせをしていって、よりよい本をやっぱり持っていてもらいたいなと思っています。

(会 長) 閉架であっても何とかというタイトルの本が必要で欲しい、借りたいと申し出れば、カウンターの方は、閉架であってもすぐに探し求めて提供されるでしょう。

(事務局) はい、書名や著者名など分かれば、利用していただくことができます。

- (会 長) 閉架だから見せません、出せませんというわけではないですんですね。
- (事務局) はい、そうです。
- (渋田委員) 子ども達がいろいろ見ているときに、その場に本がないと。大人はいいんです、書名などがわかっていればお願いしますと持っていけるので。
- (事務局) そういういい本が目にとまらないっていうのはちょっとこちらとしても、いけないかなと思いますので、また、話を聞かせていただければ、いいように、図書館の本も排列していきたいと思いますので、お教えいただければと思います。ありがとうございます。
- (会 長) ほかに何か、それでは村山委員さんどうぞ。
- (村山委員) 今の良い本という話で、読ませたい100冊の本とか、低学年、中学年、高学年でおすすめの本何十冊とかいうのがありますね。しかしながら実際に子ども達が、図書室とか図書館に行ったときに、それに出会うかどうかというのは、さっき言ってあったようになかなか難しいところもあるんですね。
- それで、読むことによって、その子が良いものを得やすいという意味で良い本なんですよけど、世の中にはものすごくたくさんの方がございますので、自分達でその中から自分に合った本を選んでいくということもすごく大事だと思うんですね。だからいつだったか申しあげましたけれど、親御さんも良い本を教えてもらいたい、言ってみましたら迷路で、いっぺんでゴールに行きたい気持ち、効率よく育てていく。これだけ読ませておれば可というような感じを、本の選択の様子を見ると感じるんですね。
- しかしながら実際は、読書離れも関係ありますけれども、どれだけ子ども達が良い本、自分の好きな本を見つけられるかっていうところが大事だと思いますし、それによって、人によって違ったジャンルの本が気に入って読み進めていくというようなことから小学校高学年を突破して中学校、高校のほうに向かっていくんじゃないかと私は思っています。
- その辺が今は、ブックスタートとかで、親御さんも良いものを与えるんだって、胎教がいいだの、そのときに読み聞かせをすれば、それがまた子どもの育ちにかかわるとかいうように、非常に慎重に良いものを与えてあるのは感じとれるんですけど、これだけ膨大な情報の中から、子どもが自ら自分の必要なものを選択していく力をつけるにはちょっと不十分かなとも思います。その辺も大きく考えて、良い本というものを考えていくべきじゃないかなと、私は個人的に思っています。
- (会 長) はい、ありがとうございました。ほかに。関連ですか。
- (河村委員) 違います。
- (会 長) 今のようなことで何か関連したご意見等ございましたら。参考までにですが、ある図書館では、絵本を楽しむ日ということで2〜30冊ざっと並ん

でいたんですね。これは公共図書館の話なんですけど、その時に私がカウンターの方に「これはどういう観点で選ばれたんですか」と聞いたときに、「長年読み継がれたもの、新しいものでも非常に皆さん好評で、どなたもなるほどというような本、新しかったとしても「ぐりとぐら」じゃないですけども、そういった、20年、30年読み継がれたものを優先的に選んで並べました」って。20冊、30冊、全てではありません、また他にもあるでしょうけれども、その図書館の方がおっしゃるにはそういう観点でやっただと。結果、結構皆さん手にとられたり、あるいは借りていこうとする。複本であれば、閉架も含めてでしょうけれども。そういったかたちを結局良い本とかの観点の中に、読み継がれた、あるいは、誰もが認める、多くの方に愛される絵本とか、そういったことをやっぱり見ていくということも大事ですよ。それ以外のものもいい本はたくさんあるんですけどね。

では、河村委員さんどうぞ。別の観点で。

(河村委員) 先ほど、平成29年度の事業計画で、非常に多彩なプログラムがあっただけだなと思ったという話をしました。今年度も、私のぽつと見るだけでも、非常にユニークというか、やわらかいものも楽しそうなものもたくさん入っています。

まず伺いたいのは、4月23日の「はじめての子ども落語」に参加して、これはもう素人の方とは思えないほど大人が聞いてもおもしろかったですし、子どもも楽しそうにしていました。これは初めてだったんですかね。

(事務局) 初めてです。

(河村委員) これは本当に楽しかったですよ。要するに「読む」と「語る」で「物語」という具合に言いますから、語るということが表裏一体の、関連している分野だと思うんです。

子ども落語と同様に、例えば9月30日の「英語でおはなし会」、これも面白そうですね。私ももう大人も大人ですけども、これは「行ってみたい」と思いますね。

それと、ある意味、感激というか感謝というか、川柳の読書講座がありますね。昨年でしたか、私は協議会で「川柳なんか、大人がいろいろ、自由に発想して表現するという意味でもおもしろいんです」という話をした記憶があります。それで入れてもらったんだとは思いませんけれども、これは大人が参加できる身近な文学ですね。この前も申しましたように、NHKの土曜日の3時に、大人の方の川柳の時間があって、聞いた人は皆さんも楽しいし私も楽しい、こういうものを入れていただくと読む、語るという世界がぐっと我々にとっても身近になると同時に、図書館に対しても、ものすごく親近感がわきます。

よその例えば公共図書館で、こんな柔軟な発想はあるのかなというのが、あまりよく知らないんですよ。先生のようにご存じの方は色々な例をご存じだと思うんですが。

私は古賀市の規模でこういう発想をぜひどんどん入れていただいて、皆さんの反応を見ながら、柔軟な多彩なプログラムを今後も大いに期待しています。

(会長) 粗忽家酔書さんは宗像落語会の方で、セミプロに近いですね。毎月1回、「ゆりっくす日曜百円寄席」をされていて、私も何回か行っているんですけども、それは上手です。さらには紙切りをされたんじゃないでしょうか。テレビなんかでやっていますね。紙を切つて舞妓さんの絵がぱっときれいにでる、あの世界ですよ。落語をされたんですかね。本

の読み聞かせもされたんですか。

(河村委員) 落語をされてその途中、落語ばかりだと長くて、1時間ありますから。途中で紙切りをされました。子ども達もものすごく喜んでいました。

(会 長) 絵本に落語絵本というのがありますね。いろんな落語の有名なお話がございますね。それをもとにして、川端誠さんが絵本化されていて、シリーズもので結構あります。そんなことをされながら、そちらに子ども達を誘い込んだのかなと。

(事務局) 落語をお聞かせいただいてから川端誠さんの本なども持って行って、こんな本もありますよということで紹介までさせていただいたところです。

(会 長) 今河村委員さんが幾つか指摘されたような、非常にユニークな取組があります。ビブリオバトルを新しく今度入れられたでしょ。今、洪田委員さんがおっしゃったけど、これはものすごく難しいんですけども、楽しいし、レベルが高いんですよ。これやり始めると必ず、発表する人も聞く人も、この段階で変わってくることも多いんですよ。これは低学年、小学生でも、中学生、高校生でもそうですけど、非常にレベルの高い活動だと思いますね。すごいなと思って感心しています。

総じて、河村委員さんもおっしゃったんですけども、どなたがこれを計画されたかわかりませんが、非常に質が高いなと前から思っていました、今回も違うなと思いがらですね。後で久池井副会長さんにも専門的なところでお話いただきたいんですけど、なかなか公共図書館で、ほかにこういった取組は少ないんじゃないかなとは見ているんですけど。案外、最近広がっているんですかね。

(副会長) 意外と公共図書館でする事業は小さい子向けが多いんですよ。読み聞かせは熱心にされていますし。小さい子ども向けと非常に文学のレベルが高いものはあるんですよ。

でも、1番利用される市民の方々にわかりやすく、取り付きやすく興味・関心をもたれている部分、1番と思うところが意外と手薄なんです。

古賀市立図書館はそのところをよく考えて工夫して、取り入れてくださっているなと思うと同時に、この協議会の中で、こんなことがあったらいいなということをしたことが中に入っていますよね。これは非常にありがたく思っています。ビブリオバトルもそうですし、がんに関する医療情報についても、昨年話をしましたよね。それがちゃんと入っていますから、こういう柔軟な姿勢はぜひ今後とも取り入れていただいたのと同時に、たしか昨年度は私見ましたら野菜づくりは好評だったかといって2回目をされましたね。予定になかったこと、ああいうところはとても大事で、市民のニーズを大事にされているところなんじゃないかなというふうに思いました。

(会 長) ありがとうございます。運営方針の一つ目に、「生涯学習を支援する情報センターとして」とかですね。「市民の暮らしに役立ち」とか、「市民とともに成長し」、市民に愛されて、まさに市民のために、図書館も当然ですけど、まさに、全ては利用者のため、つまり市民のためだと思うんです。それが本当に実践されているということが、今皆さんが言



われたことだと思います。

去年、その前からこういった形でこの協議会なり会議をすることによって、その意見を一つでも二つでも取り入れていこうとし、取り入れていらっしゃる。頭が下がりますし、ぜひこの方針、方向というのは、今後ともお願いしたいなと思います。

活動目標のなかの具体的なところで6点ありますけども、そのようなことを、セカンドブックとか読書ノートとか、具体的なことをおっしゃいました。それから学校との連携だとか、国立国会図書館、「ゆにかねっと」かな、そのネットワークのこととかを充実させるんだということでされていると。あらためて確認します。では他にまだございましたら。

檜山委員さん、初めての協議会ですが、ご意見やご感想など、ぜひ一言。

(檜山委員) はい、初めて聞く言葉とかもあって、質問したいけどちょっと恥ずかしくて、こんなこと聞いていいんだろうかというところもありました。今日この内容を振り返って、わからなかったところは自分なりに調べてみたり、見に行ったりしてみたいと思います。

子どもが大きくなって、図書館から離れているんですね。最近図書館に入っていないなっていうのを改めて感じました。これを機にまた新しいことに挑戦して、みんなにも伝えていけることは伝えていきたいと思います。ありがとうございました。

(石丸委員) 平成29年度ということから外れるかもしれないんですけど、できれば、平成29年度だけではなく、今後の計画ということで、もしお答えしていただけることがあれば、伺いたいことがあります。

今現在、古賀市立図書館、正規職員の司書の方々が何人かいらっしゃると思うんですけど、その方以外、毎年、司書で採用されているわけではないというふうにお伺いしました。今いらっしゃる方々以外で新規に採用された方はいらっしゃらないというふうに伺っています。その理由があるのであれば、もし伺わせていただけるのであれば。

というのが、やっぱり私は運営方針に対してでも、この事業計画でも、これがこんなに柔軟ですごくすばらしいものができるのは、やっぱり今、正規の職員の方々が司書の先生方がいらっしゃるからだと思います。

ですが、今後その方々がいらっしゃらなくなって、退職なさった後、その事を誰が引き継いでいくのかなということで古賀市の図書館のことをとても不安に思っています。もし、そのことについて何か計画、ビジョンがあれば伺いたいと思います。

(会 長) はい、部長さん、どうぞ。

(部 長) 私のほうでなかなか具体的な答えができないというのが、これは人事の採用計画がございます。具体的に私達の思いとやはり人事の側の思いっていうのが違うところにあるかもしれません。ご質問せたくいただいたんですけども、この場で、どういうふうを考えておりますというのは、あくまでも私的な考え方になりますので、今日はお答えは差し控え整理させていただきたいと思います。申し訳ございませんがご理解ください。

(会 長) 分かりました。図書館は学校図書館にしても何にしても、基本的に職員、人ということがとても大事で、資料の前にむしろ人。人が運営、経営していくという意味で、とても大

事な存在だし、まずはそこからスタートってよく言われるんですよ。

その上で、資料、メディアを揃えていくっていう考え方が大事だと思いますので、その辺りも含めて、今後またよろしくお願ひしたいと思います。

はい、久池井副会長どうぞ。

(副会長)

平成 29 年度の活動目標の 6 番目に、学校図書館との連携推進とありますね。このところなんですが、古賀市立図書館は事業計画の中でも、読書ノートの配布とか、様々な事業展開をされておりまして、先ほど申しましたように非常に素晴らしいと思っています。

その中で特に、今年度は子ども読書活動推進計画が新たに作られますから、非常に大事な年だと思うんですね。

それで先週の土曜日、新聞に太宰府市民図書館が文部科学大臣賞を受けたとありました。あれは子ども読書活動推進にかかわる文部大臣賞なんですよ。一体何をしているからもらったんだろうと思って、私非常に関心がありまして、見たら、例えば、定期的な読み聞かせや、絵本作家の講演会を催したとか、子ども達が手に取りたくなるような本の配置を工夫、これは普通、まあ古賀の図書館でもしていますよね。

その次の段落がおそらく違ったと思うんですよ。太宰府市は小学校には学校司書が配置されているそうなんです。だから学校司書が配置されているその小学校については巡回助言というのが入っているそうです。それから、中学校は学校司書が配置されていないということで、運営支援を行っているということです。

恐らく、詳しいことは書いてなかったからわかりませんが、仕組みができているんだと思います。一遍にあれもこれもするというのはなかなか大変なことだと思いますが、先ほどの出前講座のこともありましたが、待っている状態というのは意外ときついですね。何があるかなと思えばなかったとか、準備だけして終わったとかあります。ある面ではやっぱりもう一步踏み込んで、学校と手を結ばれて、こういったところでは少し巡回して、ご相談に応じましょうとか、できる限りのところで何らかの積極的な一步というのが要るんじゃないかなと思います。

ただ、一遍にあれもこれもというと非常に大変なことになりますので、そこは学校の校長先生方、先生方と連携を取られて、できるところで、一步踏み出す。そして、ある面では学校からのリクエストを待つといった、両方が大事かなと思います。ぜひ、6 番目で学校図書館との連携促進という中にですね、幾つかのプログラムを今後具体化していただけたらというふうに思っております。

(会 長)

大事な貴重なご意見じゃないかと思います。今後の方向性を示すべく、まさに学校間あるいは図書館、公共図書館とのネットワークも、そのことがいえるんですね。

人のネットワーク、物流のネットワーク、そういう意味で、今後大事な、そして今おっしゃったように、古賀市でやれるところからやっていくっていう、そこから入っていく、やれるところから進んでいくという事が大事ではないかという指摘じゃなかったかと思います。

はい、本当にまとめのご意見ということで、ありがとうございました。他に何か。なければ、この辺りでしめたいと思いますけど、この部分については、良いですかね。ありがとうございました。いろいろな意見、ご質問等を今年も、そしてまた、今年以降につなげ

る、いろんなことが出てきたんじゃないかなと思います。

(3)その他

(会 長) そこで次回のことも含め、(3)その他ということで、事務局からお願いいたします。

(事務局) その他ということで事務局より2点お願いします。

1点目は、毎回ですが、次回の開催についてご相談をしたいと思います。

その前に、図書館協議会につきましては、年4回ということで開催を考えております。5月、8月、12月、2月ということで考えております。お忙しいと思いますが、4回ということでご協力いただければと思います。

今回は8月の後半ということで行いたいと思っております。具体的にご相談させていただきたいのが、8月23日水曜日、あるいは25日金曜日あたりいかがかなというふうに思っておりますが、いかがでしょうか。

(会 長) 8月23日か25日はどうでしょうかということです。この時間ですね、きょうの時間。

(事務局) もし差し支えなければもうこの場で決めたほうがと思います。23日、25日でご都合の悪い方ありましたら。

(河村委員) もしできれば23日水曜日のほうが好ましいです。

(会 長) 25日は都合が悪いのですね。

(橋本委員) 25日に校長研修会が入っていますので23日のほうが良いです。

(会 長) 23日のほうが他の皆さんよろしいでしょうか。23日のほうがいい意見が多いんですが、ご検討ください。

(事務局) はい。23日で決定でよろしいでしょうかね。

(会 長) はい、14時ですね。

(事務局) はい、23日14時からということで考えております。

(会 長) ということで、場所はここになるか、図書館になるか。

(事務局) そうですね、そこはまたお知らせしたいと思います。

それから、2点目なんですけれども、これはお願いでございます。会議録公開に先駆けまして、毎回2人の委員さんに校正のご協力をいただいております。今回は初めてで申し訳ありませんが、檜山委員さん、それから村山委員さんをお願いをしたいと思います。会議録を事務局で作成しまして、出来上がりましたらご連絡をいたしますので、読ん

でいただいて、確認をしていただいて署名をしていただくというふうになりますので、ご多用中とは思いますが、よろしくお願いいたしますと思います。

(会 長) 早速、檜山さんにお仕事が来ましたが、早く、お引き受けいただいております。大変でございますけど、村山委員さんとそれぞれよろしくお願いいたします。

(事務局) 今確認がとれまして、8月23日14時からこの第2委員会室がとれました。第2委員会室でお願いしたいと思います。

それからちょっと別件なんですけど、先ほどの会長さんのお話の中で、学校史や記念誌が全国で破られている、切り取られているという話が今日の新聞に載っているということですが、古賀市の実情ということでもちょっとお伝えしておきます。

先週の日曜日に点検しましたが、特に問題はないようでした。ただ、全国的に広がっておりますので、一時的に閉架のほうに引き上げさせていただいて、様子を見ているところでございます。先ほど、どうなったのかということでございましたので、ここでお答えをさせていただこうと思います。

(会 長) そうですね。感染していきますので、結構うちも、うちものがあるうらんですね。守らざるを得ませんね。それではこれでその他は終わりました。今日の議事は全て終了しました。ありがとうございました。協議は終わりましたので、後は進行を事務局にバトンタッチします。よろしくお願いいたします。

(事務局) 鈴木会長、久池井副会長、ありがとうございました。  
たくさんの意見を皆様からいただきまして、力をいただきましたので、今年度もしっかりと頑張っていきたいと思っております。

## 7 閉会のことば

(事務局) 最後に、閉会の言葉を館長梅谷よりいたします。

(館 長) 皆さんどうもおつかれさまでした。今日は平成28年度の事業報告と平成29年度の事業計画について御協議をいただきました。

今日いただいた意見を、これから先、積極的に情報センターとしての図書館運営に生かしていきたいと思っておりますので、ご協力ご指導をよろしくお願いいたします。

それでは、これをもちまして、平成29年度第1回古賀市図書館協議会を閉会させていただきます。どうもありがとうございました。